

連携し支え合う税金

横手清陵学院中学校 熊谷 はるな

税金はどのような場所で使われているのだろうか。警察や消防、医療などの公共サービス、道路整備、教育など、私たち国民の生活を支えるために税金が使われているということは、何となく知っていたが、私のすぐ身近なところで私の生活を支えてくれているとは思ってもありませんでした。

私は剣道部に所属して、中学校最後の総体に向けて稽古に励んでいました。しかし、今年の三月、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、学校が休校になり、剣道の稽古もできなくなってしまいました。五月の連休明けから学校が再開し、部活動も少しずつできるようになってきましたが、面を付けての稽古は当分できませんでした。心配していた最後の総体の開催が決まった時は、本当に嬉しいと思いました。それから私は、総体で何としても勝つために一生懸命稽古に励みました。しかし、部活動の自粛で稽古ができない期間が長かったため、自分の体が思うように動かず、稽古中に足を痛めてしまいました。病院に行って治療してもらった後、会計の人から

「熊谷さんの会計はありません。」

と言われました。私は、なぜ大人は会計があるのに、子供はないのか不思議に思い、母に尋ねてみました。母は、中学三年生までは、県や市が医療費を負担してくれていること、それを福祉医療制度ということ、そして、そのお金は税金から出ていることを教えてくれました。私たちはそれを「マル福」と呼んでいるそうです。そういえば、私が病院に行くとき、いつも受付で健康保険証と「マル福」を出していることを思い出しました。私はそれまで、マル福にはどんな役割があるか分かりませんでした。しかし、今回のことがあって、税金がどれだけ私たちの生活を支えてくれるのかを知ることができました。この制度を知ってから、治療をしてくれる医師や親、剣道を指導してくれる先生方などに感謝し、足を治療しながら少しずつ稽古に励みました。そして、総体当日は、緊張しながらも気持ちを前に出して試合に臨むことができました。結果は準優勝することができました。

税金は、私たちにとって大切な存在です。誰かの支えがあるおかげで、私たちの生活は助けられています。このようにお互いを支え合う連携は、これからも大切にしていかなければならないと思います。今回、私はマル福のおかげで、安心して治療を受けることができました。もし、税金がなくて福祉医療制度がなければ、けがをしてもたたくさんのお金がかかってしまうため、心配で治療を受けなかったかもしれない。そうすれば、最後の総体に出ることができなかつたかもしれない。税金は、私のすぐ身近なところで私を支えてくれました。私も将来、税金をしっかりと納めて、自分を、そして誰かを支えられるようになりたいと思いました。